

市役所女子職員の意識調査

『みなと』二〇〇号のアンケートから

多根雄一

一 はじめに

私が市役所に就職したとき、同じ職場にAさんという若い女子職員がいた。まるで花のような存在で、彼女がいるだけで職場の雰囲気はバツと明るくなった。Aさんの仕事は事務用品を購入したり、經理の帳簿に数字を記入したりといった、いわば補助的なものであったが、就職したての私は、これが一般的なOLの姿であり、彼女たちもそれで満足しているのだと思っていた。

女は戦力にならなくてもよい、職場の花であればよい、それよって男の仕事が捗るのだから、と考える人たちもいたが、ある日、Aさんがボツリともらした言葉が、いまだに頭にこびりついて離れない。「どうして私の仕事は薄っぺらなの。男の人みたいに、もっと奥行きのある仕事をしたいのに」

すでに結婚し、子もちになった彼女が、今ではどう考えているのかはわからないが……。

一方、民間のOLからはこういうこともよく聞かされる。

「市役所の女の人はいいわね。休暇はいっぱいあるし、男の人と同じ給料もらえるんだから」と。

ところで、わが市役所女子職員の仕事の実態と意識はどうなのであるか。職員機関紙『みなと』第一二〇号で、職場の男女平等に関するアンケート調査を行ったので、ここではその中からいくつかを選びもう少し詳しくみていきたい。調査の概要と全体の調査項目については、紙面の都合により省略したが、『みなと』第一二〇号（五十六年三月）を参照していただきたい。

二 調査の結果

① 仕事や職場生活でよくすること

⑦ 女性は「お茶入れ」

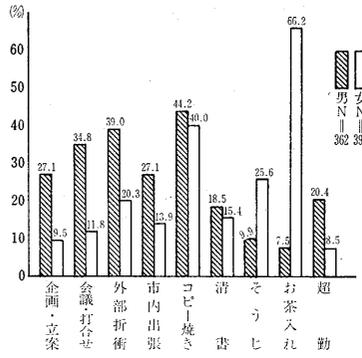
仕事や職場生活で普段よくやっていることを聞いてみた。女性が男性を大きく上まわっているのは「お茶入れ」と「そ

うじ」だけである。これに対し、男性に多いのは「企画・立案」「会議・打合わせ」「外部との折衝」「超勤」「職員とのみに行く」などである。主要な部分は、ほとんど男性が担当しているようだ。「コピー焼き」「清書」は男女間にそれほど差がない。調査前には、女性の方がはるかに多いのではないかと思われていたが、これは意外な結果であった(図一)。

④ 女性は年齢による差が少ない

男女差の大きい仕事の中から、五つを選んで性・年齢別にみたのが図二である。

図一 性別にみた「よくする」仕事

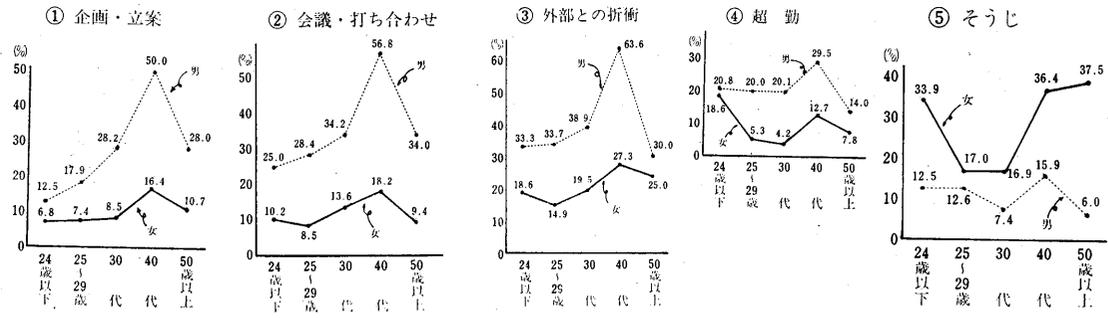


る。「企画・立案」「会議・打合わせ」「外部との折衝」は、男性では四〇代が極端に高い凸型になっているが、女性では多少、四〇代で高いものの、ほとんど年齢による違いはみられない。従って、もともと、男女間に差があるものが、四〇代になるとその差はさらに大きくなっている。

男性の場合は、若いからやっていないのに対して、女性の場合は、女だからやっていないことを物語っているようだ。

これを、職場における女性の割合別にみるとどうだろう。「企画・立案」「会議・打合わせ」「外部との折衝」と答えた女性は、女性の割合が以下(以下)の職場では、大きな違いはみられない。しかし、女性が70%以上を占める職場では、「企画・立案」「会議・打合わせ」「外部との折衝」をよくすると答えた女性が、それぞれ二〇%、三三・三%、三六・七%と高く、男性平均に近い。フェイス・シート同志のクロス集計がないので、はっきりしたことは言えないが、おそらく、女性

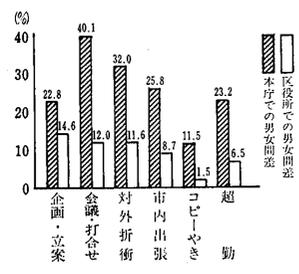
図一 2 性・年齢別にみた「よくする」と答えた人の割合



が坊以上いる職場は福祉関係の課と思われる。
 ◎二〇代後半、三〇代の女性で少ない
 「そうじ」「超勤」
 「超勤」をよくするのは、やはり男性四〇代で、職場における中心的存在をうかがわせる。女性では二四歳以下の一八・六％と比べて、二〇代後半と三〇代でそれぞれ五・三％、四・二％と低いのが特徴的である。「そうじ」も同様に、二〇代後半、三〇代の女性で約一七％と低く男性に近い数値を示している。この年代は育児や家事で忙しく、九時前に出勤してやる「そうじ」や、五時以降に残る「超勤」など、やる余裕がないのだろうか(図一2)。
 ◎本庁で大きい男女差
 次に、「よくする仕事」を性別、本庁・区役所別にみてみよう。本庁と区役所におけるそれぞれの男女間差を示したのが図一3である。例えば、「企画・立案」をよくするのは、本庁・男で三一・六％、本庁・女で八・八％、その差が二二・八％となる。図には、この差を示してある。消書、そうじ、お茶入れなどについては、本庁での男女差と区役所での男女差がほぼ同じなので図は省略した。図をみてわかるように、どの仕事も区役所での男女差より、本庁での男女差の方が大きい。区役所で男女差が小さいのは、も

ともと、企画、会議、対外折衝などを伴う仕事が、区役所では本庁より少ないためと考えられる。逆に、本庁ではそれらが多く、しかも、男性が独占しているため、男女差が大きくなるのだろうか(表一1、図一3)。
 このことが、職場での不満や平等感に影響を与えているのだが、これについては後述する。

図一 3 本庁と区役所における男女間差



表一 1 本庁・区役所別にみた「よくする」仕事

	企画立案	会議・打ち合わせ	外部との折衝	市内出張	コピーやき	超勤
本庁	男 31.6 女 8.8	47.8 7.7	48.5 16.5	34.6 8.8	52.2 40.7	28.7 5.5
区役所	男 23.7 女 9.1	22.9 10.9	32.1 20.5	23.7 15.0	42.0 40.5	16.0 9.5

表一 2 職場での不満

	人間関係が悪い	仕事がつらい	休み取りにくい	上司の理解がない	男女差がある	能力をかせげない	責任を任せない	単務が多い	業務用が多い
男平均	16.9	17.1	25.7	18.8	0.6	24.3	6.4	25.4	
女平均	19.2	17.9	19.0	19.5	15.1	20.5	8.7	30.0	
本庁	男 17.6 女 15.3	14.0 16.5	27.2 25.3	22.1 16.5	0.0 24.2	19.9 16.5	7.4 13.2	14.7 36.3	
区役所	男 13.0 女 19.1	22.1 19.1	20.6 15.0	16.0 18.2	1.5 11.4	26.7 23.2	3.1 7.3	39.0 27.3	

◎職場での不満
 ◎「男女差別」をあげた女性は少ない
 職場での不満を男女別に上位三位まで並べると、男性では「休みが取りにくい」「単純業務・雑用が多い」「能力を生かせない」「上司の理解がない」と続く。どの不満も性別による違いは、ほとんどみられないが、

ただひとつ、「男女差別がある」だけは、さすがに男性で〇・六%と低く、女性で一五・一%と男性の二五倍にもなっている。しかし、それでも、女性の不満としては第七位にあげられているにすぎず、男女差別の問題は女性全体の中では、あまり大きく位置づけられていないようだ(表12)。

④三十代女性に多い「男女差別」の不満
性・年齢別にも少し詳しくみてみよう。男女とも年齢が高くなるほど、「単純業務・雑用が多い」という不満は減少する傾向にある。男性の場合、四〇代にかけて企画・立案、会議、対外折衝などが増加していることからみて、年齢が高くなるに従い、仕事の内容が変化していくと考えられる。しかし、女性の場合、年齢が高くなるに従って「単純業務・雑用が多い」という不満が減少するにもかかわらず、企画・立案・会議、対外折衝などはそれほど増加してはいない。

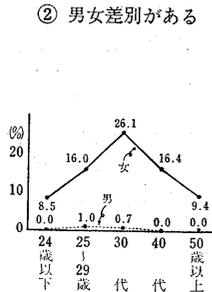
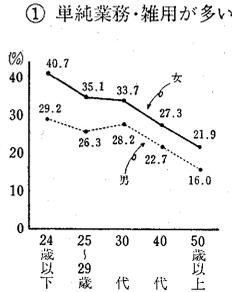
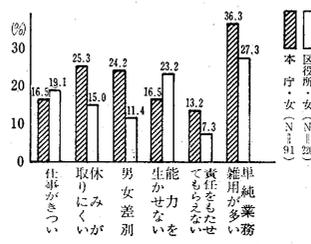
「男女差別がある」という不満は、女性の三〇代で約二六%と高く、きれいな山型をしている(図14)。

⑤男女差別の不満——本庁では区役所の二倍も

次に、女性の不満だけを取り上げて、本庁・区役所別にみてみよう。区役所より本庁で不満の割合が高いのは「単純業務・雑用が多い」「責任をもたせてもら

えない」「男女差別がある」「休みが取りにくい」であり、とくに「男女差別がある」は、区役所の二倍にものぼっている。これはすでにみたように、男女差の大きい企画・立案・会議、対外折衝などの仕事で、区役所では本庁ほど多くなく、逆に、本庁ではそれらが多く、しかも男性に集中しているためと思われる(図15)。

図一5 女性の不満(本庁・区別) 図一4 性・年齢別にみた不満

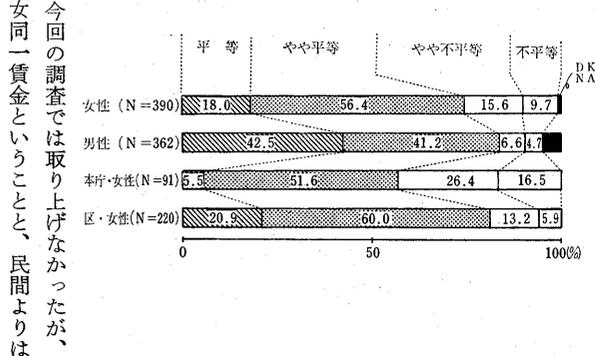


⑥平等感
前項でみたように男女差別の不満を持つ女性は約一五%と少なかった。そこで、もう少し直接的に、市役所は男女平等なのかどうかを聞いてみた。女性側の結果をみると、「不平等」が九・七%「やや不平等」が一五・六%で、両者を合わせた二五・三%の女性が、なんらかの形で不平等と感じていることになる。これは「男女差別」の不満を持つ女性が約一五%であったことから比べると、一〇%ほど多い。不平等と感じている女性が、男女差別の不満をあげているのかどうかは、質問のクロス集計がないので、はっきりしたことは言えないが、不平等感を持つ女性が、かならずしもそれを不満とは思っていないといえるのではないだろうか。

「平等」とはつきり答えた女性は一八%と多くはないが、「やや平等」と答えた女性が五六・四%と過半数を占め、両者を合わせた「平等派」は約七四%にもわけた。仕事の内容をみると、男女間に大きな違いがあるにもかかわらず、平等感だけは高い。何が、これだけの平等感を支えているのだろうか(図16)。

⑦本庁より区役所で高い平等感
女性を本庁と区役所別にみると、本庁

図一6 平等感



では「平等」が五・五%、「やや平等」が五一・六%で、両者を合わせた「平等派」が約五七%と低い。これに対して、区役所では「平等」と思う女性が二〇・九%「やや平等」は六〇%で、「平等派」は約八一%にのぼる。これは、すでに何度かふれているように、区役所では単純業務が多く、男女間の仕事に本庁ほどの差がないため、区役所の女性は同じ区役所の男性と比較して平等と感じているのかもしれない。そして、この区役所に女性が多い(女性の五六%が区役所勤務)ということが、女性全体の平等感を押し上げていよう(図16)。

まだだという気持が女性の平等感の高さに大きく寄与しているのではないだろうか。

⑥女性の多い職場ほど「平等」

市役所は男女平等とはつきり答えた女性は一八％であったが、これを職場における女性の割合別にみるとどうだろう。十分の一以下の職場では「平等」と答えた女性は一一・三％であるが、女性の割合が増えるに従い、一四・八％、二三・五％、二八・三％と増加する。

ここで再び、職場における女性の不満のうち、「単純業務・雑用が多い」と「仕事

がきつい」をあげた女性は、どこでその率が高いのかをみてみよう。女性の多い職場ほど、「単純業務・雑用」は少なく、逆に「仕事きつい」という不満が増えている。単純業務・雑用が減少すれば、男女平等にはなるが、それに伴ない仕事

がきついという不満が出てくるよう

図-8 職場の女性の割合別にみた女性の不満

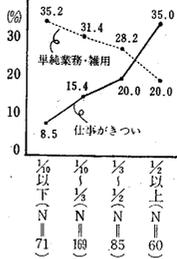
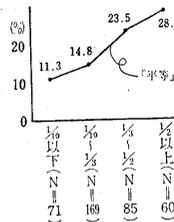


図-7 職場内の割合別にみた女性の平等と答えた女性の割合



だ(図-7、8)。

④就職した理由(女性だけに質問)

⑦公務員は男女平等が五割

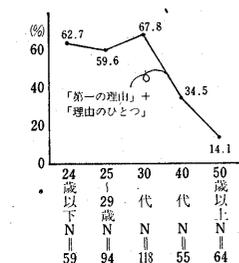
市役所は「男女平等」「やや平等」と考える女性が七四％であった。では、就職の時点からそれを意識していたのであろうか。そこで、就職した理由として「公務員は男女平等を考慮したのかどうかを聞いた。「第一の理由」が一〇・五％、「理由のひとつ」が四一％で、ともかく意識して就職した女性が約五二％である。「考えなかった」女性は四七・九％で、ほぼ半々に分かれた(図-9)。

④三〇代と四〇代で分かれる

図-9 就職した理由として「公務員は男女平等」を考慮したか(女性だけ)

性別	理由のひとつ		考えなかった
	第一の理由	理由のひとつ	
女性 (N=390)	10.5	41.0	47.9
本庁・女性 (N=91)	7.7	35.2	57.1
区・女性 (N=220)	12.7	42.7	44.1

図-10 「公務員は男女平等」を考慮した女性



次に、これを年齢別にみてみよう。二四歳以下で六二・七％、二〇代後半で五九・六％、三〇代で六七・八％と、それぞれ約六〜七割の率であるが、四〇代になると三四・五％、五〇歳以上では一四・一％と極めて低い。この差は年代の相違というよりも、世代の違いによるところが大きいのではないだろうか(図-10)。

⑤あなたの仕事は女にもできるか(男性だけに質問)

⑦区役所—できるし、やっている
本庁—できるがやっていない

まず、単純結果から示すと、「できるし、やっている」が三三・四％、「できるが、やっていない」が三五・四％、「向かない」は二五・七％である。一応、女にもできるとする人が、六八・八％になる。これを、本庁と区役所ではどのような違いがあるのかみてみよう。

「できるし、やっている」は、本庁では一九・九％であるのに対し、区役所では五八％と極めて高く、本庁の三倍に近い。逆に「できるが、やっていない」は区役所で二〇・四％なのに対し、本庁では四九・三％と二倍強である。「向かない」とした人は、本庁で二五％これも区役所での率を上げまわっている。

すなわち、本庁では男と女の仕事がかなり分かれているのではないかと、そして区役所では、単純業務が多い(区役所・

男性の不満第一位)ため男女同一の仕事をしている割合が高いのではないかと考えられる。すでにみたように、女性の平等感が本庁で低く、区役所でも高いのも、この数値をみれば、さらに納得できるだろう(図-11)。

④三〇代から男女の仕事が分かれる

年齢別にみると、「できるし、やっている」は二四歳以下で最も高く四一・七％、二〇代後半でも四〇％あり、年齢が高くなるに従いその割合は減少する。逆に「できるが、やっていない」は二四歳以下で二五と最も低く、二〇代後半でも二六・三％、年齢が高くなるほど、その割合も高くなっている。両者の順位が逆転するのは三〇代からで、それ以降、そ

図-11 あなたの仕事は女にもできるか(男性だけ)

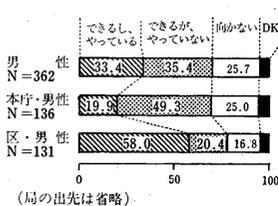


図-12 あなたの仕事は女にでもできるか(女性だけでも)

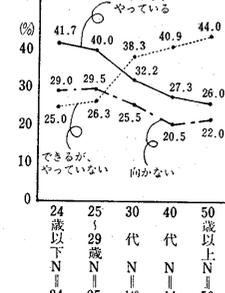


図-14 配転の際に考慮すること（女性）

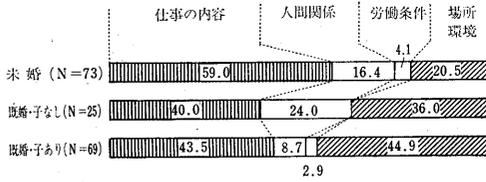
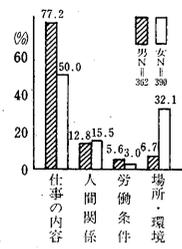


図-13 配転の際に考慮する者（配転希望者）



の差はさらに広がる。
つまり、若いうちは男性も女性と同じ仕事をすることが多いが、年齢とともに、仕事の内容が変化し、女性とは異なる仕事をするが多くなると考えられる。さらに、男性の場合、年齢が高いほど係長、課長職が多いので、なおさら男女間に差があるのである(図-12)。

⑥ 配転の希望とそれの際に考慮すること
⑦ 女性の立場が「場所・環境」

現状では同じ職場にいる限り、それほど仕事の内容は変わらない。そこで配転ということがあるわけだが、まず、配転の希望を聞いてみた。「望む」人は男性で四九・七%女性で四三・一%であった。

この配転希望者に対して、配転の際に考慮する点は何かを、さらに聞いてみた。性別にその割合を示したのが図-13である。男性では「仕事の内容」が圧倒的に多く七七・二%を占めている。女性の場合も「仕事の内容」が第一位(五〇%)ではあるが、「場所・環境」が三二・一%で第二位にあがっているのが目立つ。

ここで女性だけを取り上げ、婚姻の有無、子供の有無別にみてみよう。「場所・環境」と答えた人は、未婚者より既婚者の方に、また既婚者の中でも「子なし」より「子あり」の方でその割合が高い。とくに、既婚・子ありでは四四・九%と高く、仕事の内容(四三・五%)を抜いて第一位にあがっている。

育児や家事のほとんどを女性が背負っている現状を考えれば、当然の結果かもしれない。しかし、『だから女には仕事をまかせられない』という男性側の言い分も出てくる。いずれにしろ、この育児や家事が、働く女性にとってネックになっていることは確かだ(図-14)。

表-3 いつまで働きつづけるか

	結婚するまで	出産するまで	他がみえるまで	仕事からみえるまで	年金がなくなるまで	高齢退職まで	条件が許す限り
女性							
未婚 (N=145)	1.4	1.4	6.9	4.1	21.4	61.4	
既婚・子なし (N=50)	—	0.0	8.0	4.0	30.0	56.0	
既婚・子あり (N=186)	—	0.5	1.1	7.0	26.9	60.2	
女性平均 (N=390)	0.5	0.8	4.4	5.6	25.6	59.5	
男性平均 (N=362)	—	—	7.5	5.5	43.4	38.7	

⑦ いつまで働きつづけるか
最後に、市役所の女性がいままで働き続けるのかをみておきたい。「条件が許す限り」というあいまいな選択肢を入れたため、ここに集中してしまっただが、「年金がつくまで」(五・六%)、あるいは「高齢退職まで」(二五・六%)、勤めあげるとはつきり答えた人が女性全体で約三・一%いる。未婚の女性では、「結婚するまで」と「出産するまで」がそれぞれ一・四%である。この数字が小さいの

かどうかは、民間のデータがないのでなんとも言えないが、結婚や出産を機会に退職したいとはつきり考えている独身女性は一・八%となる(表-3)。

三 おわりに

ある調査によると、民間の会社で男女平等感を持つ女性は一九%と少ない。市役所の場合も仕事の内容に男女差がかなりみられたが、平等感是非常に高かった。これは「民間よりましだ」という気持や、男女同一賃金であることからきているようだ。あるいは、もともと仕事に差があつて当然と考えているためであるか。ともかく平等感だけは高い。市役所というところは、女性にとって案内、居ごこちの良い職場なのかもしれない。

今回の調査は職場に的をしぼって行ったが、職場での真の男女平等をすすめるとしたら、社会全体や家庭での問題を抜きには考えられない。しかし、これらの問題が解決したとして、職場における真の男女平等は可能なのだろうか。

〈磯子区課税課市民係〉